

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
総括研究報告書

障害福祉サービス等事業者における
高次脳機能障害者への支援の実態把握及び推進のための研究
研究代表者
深津 玲子：国立障害者リハビリテーションセンター 顧問

研究要旨

本研究では、1) 障害福祉サービス等事業所における高次脳機能障害者の利用および支援拠点や医療機関等との連携について、その実態把握を行い、課題を明らかにし、これらの課題解決のための提言を行うこと、2) 今年度より加算対象となったについて、全国での実施状況を調査し、運用上の課題を収集し、認められた問題点の解決に向けた標準テキスト改訂、提言を行う、の2点を目的とした。

研究2年目の今年度は、1) 障害福祉サービス事業における実態調査：①東京都（1004か所）および滋賀県（100か所）で相談支援事業所に配布した質問紙調査を集計し、分析、②運営形態や利用実績の異なる自立訓練事業所7法人を対象にヒアリング調査を行い、専門職配置、連携体制、支援プロセス、運営上の課題等について質的分析を実施。2) ③高次脳機能障害支援者養成研修会の実施状況調査：愛知県において令和6、7年度に実施した研修会について、詳細な質的検討を行うとともに、東京都、千葉県、静岡県、大分県でヒアリングを実施。④研修会テキストの改訂：全テキストについて、出典確認と適切な著作権処理、イラスト・用語の統一を行った。

①相談支援事業所調査で、両都県とも支援実績のある事業所が増加し、紹介経路は行政窓口経由が多いが、退院前から地域資源を活用した調整を行う体制構築が必要であることが示唆された。②自立訓練事業所のヒアリング調査では、自立訓練が退院後の生活リズムの再構築、社会参加、就労準備など、医療では対応が困難な領域を担う重要な役割を果たしていることが確認された。一方医療から福祉への連続性の欠如、支給決定プロセスの遅延、介護保険優先による情報不足、相談支援体制のばらつき、専門職確保の困難、報酬制度上の評価不足など、複合的な制度課題が示された。

③高次脳機能障害支援者養成研修会実施状況に関する5都県のヒアリング調査では、集合形式を基本とし、支援コーディネーターがファシリテーターとして参画することで、地域連携強化や施設周知に効果あることが示された。受講者の多くは福祉職で、高次脳機能障害支援の経験が少ない層の増加が確認された。④基礎編講義9編、演習4編、実践編講義9編、演習2編の計24編のテキストについて、図表・参考文献の出典確認を行い、適切な著作権処理を実施し、またイラスト・用語の統一を行った。全改訂テキストについてAI音声および字幕を付けた動画テキストを作成した。

研究分担者

鈴木匡子：東北大学 学術研究員

渡邊修：東京都立大学 客員教授

上田敬太：京都光華大学 教授

青木美和子：札幌国際大学 教授

廣瀬綾奈：帝京平成大学 講師

鈴木智敦：名古屋市総合リハビリテーションセンター 副センター長

浦上裕子：国立障害者リハビリテーションセンター病院 第三診療部長

今橋久美子：国立障害者リハビリテーションセンター研究所 室長
立石博章：国立障害者リハビリテーションセンター 企画・情報部 高次脳機能障害情報・支援センター 高次脳機能障害支援推進官
内山量史：一般社団法人日本言語聴覚士協会 言語聴覚士
研究協力者
片岡保憲：NPO法人 日本高次脳機能障害友の会 理事長
小西川梨紗：社会福祉法人グロー滋賀県高次脳機能障害支援センター 相談支援員
瀧澤学：神奈川県リハビリテーション支援センター 高次脳機能障害支援室 総括主査
稲葉健太郎：名古屋市総合リハビリテーションセンター 自立支援部長
小林秀信：国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 機能訓練専門職
阿部真市：国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 主任生活訓練専門職
山舘圭子：栃内第二病院 臨床心理士
小島一郎：名古屋市総合リハビリテーションセンター 総合相談部長
守矢亜由美：東京都心身障害者福祉センター 課長代理

A. 研究目的

障害福祉サービス等事業者における高次脳機能障害者への支援については、令和4年6月に取りまとめられた社会保障審議会障害者部会報告書において、「その特性に対応できる専門性を持つ人材配置を推進するための方策について検討する必要がある」「本人が医療との関わりを必要とする場合等について、利用者の適切な支援に求められる連携を更に促進する方策等について検討すべきである」との指摘があった。また令和6年度障害福祉サービス等報酬改定において、高次脳機能障害（者）支援体制加算が新設された。これは相談支援事業所に

については、高次脳機能障害支援者養成研修を修了した相談員を配置することで、自立訓練等通所サービスおよびグループホームについては、高次脳機能障害者が利用者の30%以上であり、高次脳機能障害支援者養成研修を修了した専門性を有する職員が配置されている場合、評価される。加算要件は、都道府県が実施する支援者養成研修受講であり、研修内容は「高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキストの開発のための研究（令和2～4年度）（研究代表 深津玲子）」で我々が開発した支援者養成研修カリキュラム及びテキストを標準とすることが定められた。高次脳機能障害支援者養成研修の全国的開催状況調査、研修事業を先行的に実施していた4自治体へのヒアリング調査を実施し、課題を明らかとし、解決のための提言を行うことを目的の一つとした。また障害福祉サービス等事業所における高次脳機能障害者の利用および支援拠点や医療機関等との連携について実態把握を行い、課題解決のための提言を行うことをもう一つの目的とした。

B. 研究方法

1) 障害福祉サービス事業所における高次脳機能障害者の利用実態および支援拠点機関等との連携に関する調査

①東京都（1,004か所）、滋賀県（100か所）で都県内の全指定特定相談支援事業所に配布した質問紙調査の集計と分析を実施した。質問内容は相談支援専門員数、利用者数、高次脳機能障害者への支援実施状況、高次脳機能障害者の紹介経路と利用したサービス種類、機関連携上の課題等である。（分担研究報告書 指定特定相談支援事業所における高次脳機能障害者への支援状況に関する調査 立石博章、今橋久美子）

②運営形態や利用実績の異なる自立訓練事業所7法人（機能訓練2、生活訓練2、機能訓練＋生

活訓練 2、生活訓練＋自立訓練宿泊型 1) を対象にヒアリング調査を行い、専門職配置、連携体制、支援プロセス、運営上の課題等について質的分析を実施した。(分担研究報告書 障害福祉サービス利用プロセス等に関する実態把握ヒアリング調査(自立訓練) 稲葉健太郎、松尾稔、鈴木智敦)

2) 高次脳機能障害支援者養成研修に関する調査および研修テキスト改訂

③愛知県において令和 6, 7 年度に実施した研修会について、詳細な質的検討を行うとともに、東京都、千葉県、静岡県、大分県で研修会に関するヒアリングを実施した。(分担研究報告書 高次脳機能障害支援養成研修の都道府県(愛知県)での実施状況と他県ヒアリングを通して 佐野恭子、小島一郎、鈴木智敦)

④「高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキストの開発のための研究(令和 2~4 年度)(研究代表 深津玲子)」で開発し、現在支援者養成研修の標準内容とされている全テキストについて、出典確認と適切な著作権処理、イラスト・用語の統一を行った。また全改訂テキストについて AI 音声および字幕を付けた動画テキストを作成した。なお各調査に関しては国立障害者リハビリテーションセンター、各分担研究者所属機関において倫理審査委員会の承認を受け実施した。

C. 研究結果

1) 障害福祉サービス事業所における高次脳機能障害者の利用実態および支援拠点機関等との連携に関する調査

①東京都および滋賀県の指定特定相談支援事業所における高次脳機能障害者への支援状況に関する調査は回収率 30%。相談支援専門員配置(実人員)は、1 事業所当たり東京都は 2.7 名、滋賀県は 2.8 名だった。相談支援(基本相談支援、計画相談支援)を提供した利用者数は、東京都は 1 事業所当たり平均 83.7 名、滋賀県は平

均 78.2 名であった。相談支援利用者に占める高次脳機能障害者の割合は、東京都は 2.7%、滋賀県は 3.9%であった。事業所において 1 年間に相談支援を提供した高次脳機能障害者数は、両都県とも「0 人」が 40%前後で、「1~10 人」が 50%以上である。相談支援事業所への高次脳機能障害者の紹介経路は、両都県とも「市町村相談窓口(障害福祉所管課、基幹相談支援センター、委託相談支援事業所等)」からの紹介が多く、滋賀県では 69.1%にのぼる。東京都では、滋賀県に比べて、「医療機関(14.0%)」、「なし(当事者や家族等から直接)(20.6%)」の割合が多く、行政窓口からの紹介は 45.6%であった。高次脳機能障害支援拠点機関からの紹介は東京都 0.7%、滋賀県 3.6%であった。相談支援事業所で計画相談支援を提供した高次脳機能障害者について、その後利用した障害福祉サービスは、東京都では 40%弱が就労継続支援(B 型)、次いで訪問系サービス、生活介護、移動支援、共同生活援助(グループホーム)であった。滋賀県では 5 割以上が就労継続支援(B 型)、次いで訪問系サービス、生活介護、共同生活援助、移動支援であった。相談支援を提供する際の機関連携上の課題をまとめた表は分担研究報告書を参照されたい。

②自立訓練事業所のヒアリング調査では、自立訓練が退院後の生活リズムの再構築、社会参加、就労準備など、医療では対応が困難な領域を担う重要な役割を果たしていることが確認された。一方医療から福祉への連続性の欠如、訓練等給付の支給決定プロセスの遅延、介護保険優先による情報不足、相談支援体制のばらつき、専門職確保の困難、報酬制度上の評価不足など、複合的な制度課題が示された。また生活訓練を中心に赤字構造が深刻で、専門職配置の経営的負担、人材確保の困難、制度間連携の不十分さなどが示された。

2) 高次脳機能障害支援者養成研修に関する調査および研修テキスト改訂

③調査した各都道府県とも集合形式を基本とし、支援拠点機関のコーディネーターがファシリテーターとして参画することで、地域連携の強化や拠点機能の周知に一定の効果が認められていた。受講者の多くは福祉職で、高次脳機能障害の支援経験が少ない層の増加が確認された。研修会基礎編参加者からは、神経心理学的検査や失語症、注意障害等に関する医学的講義の「専門用語が難しい」との回答が一定数みられた。また、検査体験演習では、評価結果と生活場面における困難との関連が具体的にイメージしにくいとの意見があった。研修会実践編では、障害特性別の対応方法を扱うロールプレイ演習について、「議論や振り返りの時間が十分でない」「事例理解に時間を要し、対応策の検討が十分に深まらない」との指摘がみられた。これらを踏まえ、愛知県では事例の共通化や解説内容の具体化を図った結果、演習理解度の向上が認められた。しかしながら、支援経験の少ない受講者に配慮した用語解説の充実や事前学習の工夫、演習時間の再配分といった課題は引き続き残された。

④研修会テキストの改訂について、研修会参加者の意見を参考に、基礎編演習 01「検査体験」の内容を改め、基礎編講義 02「診断・評価」で学ぶ症状との関連を主とした。基礎編講義 9 編、演習 4 編、実践編講義 9 編、演習 2 編の計 24 編のテキストについて、図表・参考文献の出典確認を行い、適切な著作権処理を実施した。また全テキストのイラスト・用語の統一を行った。これら改訂版テキストについて AI 音声および字幕を付けた動画テキストを作成した。

D. 考察

指定特定相談支援事業所における高次脳機能障害者への支援状況については、平成 29 年に東京都、平成 30 年度に滋賀県について同様の調査を実施している。この前回調査と比較すると、相談支援専門員の配置状況（実人員）は 1 事業所当

たり東京都は 2.7 名（前回 2.6 名）、滋賀県は 2.8 名（前回 2.8 名）とほとんど同じである。事業所において 1 年間に相談支援を提供した高次脳機能障害者数では、東京都、滋賀県とも「0 人」の事業所が前回より減少し、「1～10 人」が増加していた。この結果はより地域の相談支援事業所に利用が広がったことを示すと考える。計画相談支援利用者の割合は、今回の調査では東京都 89.7%、滋賀県 92.4%と都県間に大きな差はなかったが、東京都においては、前回（52.6%）に比べて大幅に増加した。一方、滋賀県においては、前回（94.4%）と同程度であった。相談支援事業所への紹介経路では、東京都は滋賀県に比べて、医療機関からの紹介が多かった。これは東京都において「専門的リハビリテーションの充実事業」を実施し医療と福祉との連携を図ってきたことが要因の一つと考えられる。同事業では、都内 12 の圏域にそれぞれ医療機関を配置し、医療機関を含めた関係機関による症例検討会や連絡会等を実施して、圏域内の支援ネットワークの充実を図っている。この取り組みは今後他県の医療一福祉連携の良い参考となると考える。滋賀県では、市町村相談窓口（障害福祉所管課、基幹相談支援センター、委託相談支援事業所等）からの紹介が約 7 割を占めた。滋賀県では退院後の生活や職業に関する相談について、市町障害担当課相談窓口や圏域における相談窓口に集中させる支援体制を構築していることが要因と考えられる。東京都と比べ人口が少ない自治体については、このような窓口一本化も良い参考となる。令和 8 年度の診療報酬改定で、回復期リハビリテーション病棟入院料の算定要件として、「高次脳機能障害の患者に適したサービスを提供するものの情報をあらかじめ把握すること。その情報を患者の退院時に、患者又はその家族等に説明の上、提供する」ことなどが盛り込まれた。高次脳機能障害者への相談支援の流れは、自治体の支援体制や社会資源によって異なる。都道府県等の高次脳機能障害者支援センター（高次脳機能障害支援拠点機関）等には、高次脳機能

障害者・家族等が適切な相談窓口・支援機関につながるよう、医療機関への情報提供が期待される。

自立訓練事業所のヒアリング調査では、自立訓練が退院後の生活リズムの再構築、社会参加、就労準備など、医療では対応が困難な領域を担う重要な役割を果たしていることが確認された。一方医療から福祉への連続性の欠如、支給決定プロセスの遅延、介護保険優先による情報不足、相談支援体制のばらつき、専門職確保の困難、報酬制度上の評価不足など、複合的な制度課題が示された。また高次脳機能障害者への支援においては専門職の配置が有効であるものの、それが経営上の大きな制約となっている事業所も多い。

5 都県（愛知県、大分県、静岡県、千葉県、東京都）に対する高次脳機能障害支援者養成研修会実施状況に関する調査では、支援拠点機関のコーディネーターがファシリテーターとして参画することで、地域連携の強化や拠点機能の周知に一定の効果が認められたことから、支援拠点センターとコーディネーターが中心となった研修会運営が重要と考えられる。また受講者に高次脳機能障害支援の経験が少ない福祉職が増加することが見込まれることから、愛知県の取り組みである事例の共通化や解説内容の具体化は他県の参考となる。今後も支援経験の少ない受講者に配慮した用語解説の充実や事前学習の工夫、演習時間の再配分といった課題は引き続き残されている。

今回作成した研修会テキスト改訂版（動画を含む）は令和8年5月に公開予定である。今後全国の自治体を実施する高次脳機能障害支援者養成研修の標準テキストとして活用されることが見込まれる。

E. 結論

高次脳機能障害者の地域での共生生活を推進するため、障害福祉サービス等事業所における利用実態、医療と福祉の連携体制、事業実績などについて調査し、現在の課題を示した。また令和6年度に新設された高次脳機能障害(者)

支援体制加算に対応した標準的テキスト改訂版を作成した。高次脳機能障害の支援者育成に寄与することを期待している。

1) 達成度について

予定通り進捗し、目標を達成した。

2) 研究成果の学術的意義について

本研究は、高次脳機能障害者支援の現況と課題を明らかにするために、我が国の様々な地域で多数の事業所対象調査を行い、課題を多角的にとらえ、その知見を支援者の専門性を高める研修会に生かし、社会への還元を目指す試みである。また支援者の専門性を高めるため全国で共通のカリキュラム、テキストを用いて研修会を展開するため、適切な研修内容を専門家で検討、開発している点で学術的意義がある。

3) 研究成果の行政的意義について

障害者が住み慣れた場所において必要な支援を受け、社会参加の機会を確保し、地域において他の人々と共生する社会を実現することが、現在の障害福祉の理念である。高次脳機能障害については、障害福祉制度の整備は進んだが、その特性に対応できる専門性を持つ人材を事業所に配置するための方策についてはいまだ未解決である。現場の支援者には未経験あるいは障害特性に関する十分な知識がない者も多く、適切な支援を受けられない地域も多い。一方で先進的事業所には高次脳機能障害者が集中するなど、地域格差も大きいのが現状である。当研究では先行する障害福祉サービス事業所調査を高次脳機能障害者支援の視点で改めて整理し、加えて利用実態調査を行い、課題解決に向け提言する点で、これまでにない独創的研究である。また申請者らが開発した高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキストを改訂し、広く普及することで、全国の障害福祉サービス事業所の人

材を養成し、高次脳機能障害者が利用可能な社会資源の増加が期待できる。当研究の成果は高次脳機能障害者支援の施策に活用することが可能であり、障害福祉の理念実現に寄与するものとする。

4) その他特記すべき事項について なし

F. 健康危険情報 特になし

G. 研究発表

・学会発表

1. 植野仙経、高橋賢人、植野司、上田敬太
転倒を契機とする認知機能の急激な低下：
陳旧性脳損傷をもつ高齢者の一例 第49回
日本高次脳機能学会学術集会 2025年11
月15日 名古屋
2. 森本健太郎、久良木悠介、植野仙経、村井
俊哉、上田敬太 高解像度MRIで微細損傷
が同定されるも、症状との乖離を認めた軽
度外傷性脳損傷の一例 第49回日本高次脳
機能学会学術集会 2025年11月15日 名
古屋
3. 田中かなで、草野佑介、舟木健史、西田野
百合、田畑阿美、植野司、宮本享、荒川芳
輝、千原英夫、池口良輔、上田敬太 後大
脳動脈狭窄を認めた小児もやもや病患者の
神経認知機能の特徴 第48回日本神経心理
学会学術総会 2025年9月18日-19日、姫
路市
4. 英香里、関道子、上田敬太 ジャルゴン様
の自発話に気づきのある重度失語症の一症
例 第48回日本神経心理学会学術総会
2025年9月18日-19日、姫路市
5. 駒木美紗、上田敬太、荒川芳輝、梅田雄嗣、
丹治正大、峰晴陽平、植野司、草野佑介、
村井俊哉、田畑阿美 頭蓋咽頭腫および胚
細胞腫瘍患者の高次脳機能が身体活動に与
える影響 第48回日本神経心理学会学術総
会 2025年9月18日-19日、姫路市
6. 田畑阿美、上田敬太、梅田雄嗣、舟木健史、
植野司、峰晴陽平、丹治正大、菊池隆幸、
駒木美紗、村井俊哉、荒川芳輝 apathyは
頭蓋咽頭腫および胚細胞腫瘍患者の神経認
知、社会認知、社会機能に影響を与える 第
48回日本神経心理学会学術総会 2025年9
月18日-19日、姫路市
7. 行田智哉、吉村奈津江、稲垣慧、大橋良浩、
上田敬太、小金丸聡子 失語症患者の呼称
課題における脳波を用いたfMRI推定領域の
抽出の予備的検証 第48回日本神経心理
学会学術総会 2025年9月18日-19日、姫
路市
8. 大橋良浩、行田智哉、吉村奈津江、稲垣慧、
上田敬太、小金丸聡子 脳波に基づく経頭
蓋直流電気刺激法が失語症の言語機能に及
ぼす影響の予備的検証 第48回日本神経心
理学会学術総会 2025年9月18日-19日、
姫路市
9. 蝦名昂大、上田敬太、植野仙経、高橋賢人、
村井俊哉 外傷性脳損傷患者における認知
機能障害および睡眠障害の検討 第48回日
本神経心理学会学術総会 2025年9月18
日-19日、姫路市
10. 稲葉健太郎、高次脳機能障害のある方の就
労支援を考える～医療から支援機関へ繋ぎ
の現状より～、日本職業リハビリテーショ
ン学会第52回兵庫大会、神戸市、2025年8
月23日
11. 今橋久美子、立石博章、守矢亜由美、小西
川梨紗、深津玲子 指定特定相談支援事業
所における高次脳機能障害者への支援状況
に関する調査。第49回日本高次脳機能学会
学術総会。名古屋、2025/11/14-15
12. 相馬有里、廣瀬綾奈、杉本真美、渡邊さつ
き、松尾幸治、廣實真弓、後天性脳損傷の
ための認知コミュニケーションチェックリ
ストを実施する上での注意点と課題。第49
回日本高次脳機能学会学術総会。名古屋、

- 2025/11/14-15
13. 廣瀬綾奈, 「子どもの高次脳機能障害の理解と対応 ご本人とご家族を支える支援」, 令和7年度東京都北区高次脳機能障害講演会, 北とぴあ, 2025/8/18
 14. 青木美和子, 北海道高次脳機能障害支援拠点(保健所)における支援及び地域連携体制の現状に関する調査, 日本福祉心理学会第23回大会, 徳島県, 2025/12/20-21
 15. 鈴木匡子, 「高次脳機能障害の診断・評価と、職場との連携」, 第98回日本産業衛生学会, 仙台, 2025/5/16
 16. 鈴木匡子, 「言語聴覚士のための高次脳機能障害学入門」, 第26回日本言語聴覚士学会, 山形, 2025/6/28
 17. 鈴木匡子, 「高次脳機能障害の理解と支援」, 令和7年度愛媛県高次脳機能障害支援拠点機関講習会, 松山, 2025/7/19
 18. 鈴木匡子, 「構成障害と視空間認知障害」, 第49回日本神経心理学会, 姫路, 2025/9/18,
 19. 鈴木匡子, 「高次脳機能障害とは」, 令和7年度高次脳機能障害者地域支援者研修会, 仙台, 2025/9/26
 20. 鈴木匡子, 「注意障害と遂行機能障害」, 第19回山形県高次脳機能障がい者リハビリテーション講習会, 山形, 2025/10/18
 21. 鈴木匡子, 「高次脳機能障害のある方を理解し、支えるために」, 令和7年度広島県高次脳機能障害研修会, 広島, 2025/11/2
 22. 鈴木匡子, 「高次脳機能障害を知る・支える」, 令和7年度宮城県高次脳機能障害支援普及事業 第一回専門研修会, 仙台, 2025/11/8
 23. 鈴木匡子, 「医師に高次脳機能を学んでもらうには」, 第49回日本高次脳機能学会, 名古屋, 2025/11/14
 24. 鈴木匡子, 「高次脳機能障害 一気づく苦しみ・気づかない苦しみ」, あいち高次脳機能障害リハビリテーション講習会, 名古屋, 2025/11/16
 25. 渡邊修: 脳損傷者に対する職業リハビリテーション 第83回 日本リハビリテーション医学会関東地方会 東京慈恵会医科大学 2025年9月23 教育講演
 26. 渡邊修: 高次脳機能障害者支援法の制定に向けて 第49回日本高次脳機能学会学術総会 カレントスピーチ2 日本高次脳機能学会 2025年11月15日 名古屋
 27. 渡邊修: 高次脳機能障害者に対する診断・治療の現状と課題 シンポジウム 高次脳機能障害者を地域で支える リハビリテーション・ケア合同研究大会 大阪 2025年11月21日 大阪
 28. 渡邊修: 地域で支える高次脳機能障害-支援ネットワークの構築と展望- 基調講演 全国障害者リハビリテーション研修集会 2025名古屋 2025年11月27日

H. 知的財産権の出願・取得状況 なし

